

第57回三木市ぶどう品評会審査報告

審査員を代表して、農業技術センターの宗田から審査報告をさせていただきます。

出品規定に基づいて出品されたぶどう 10品種116点 について、「第57回三木市ぶどう品評会審査規定」に基づき、わたくし農業技術センター宗田、加西農業改良普及センター北村普及指導員、東元普及指導員の3名で審査を行いました。

果粒の着色程度、果粒の大きさや揃い、房のしまり、箱全体での房揃い、傷や果粉の付着度など、外観の比較により審査を行い、特賞12点、優秀賞13点を選定いたしました。

ここで本年をふりかえりますと、気象面では、春先から気温が高く推移したため、生育が平年に比べかなり早く見込まれたものの、4月下旬以降は気温が平年並みに推移したため、結果的に平年並みの生育に落ち着いている傾向でした。

また本年は、梅雨入りが5月29日と平年に比べ8日ほど早く、一方で梅雨明けは7月20日頃と平年に比べ1日遅く、長い梅雨となりました。そのため、病害防除には大変なご苦労があったとお察しします。

一方で梅雨明け後は、8月中旬まではまとまった降雨がなく、また記録的な高温が続いたことで、生産者の皆様におかれましては、例年にも増して栽培管理にかかるお身体への負担が大きかったことと思われます。さらに収穫時期を迎えた8月15日には、台風7号が兵庫県を通過し、収穫が終わるまで気を遣う状況が続く年でした。

このような厳しい気象条件のもと、三木市ぶどう品評会の最優秀賞である兵庫県知事賞に選ばせていただきました 池田清司

さんのピオーネは、粒張りが特に優れ、房の形状や締まりの良いぶどうでした。

その他、上位に入賞された出品物はいずれも着色や粒張りなど、甲乙付け難い優れたものでした。受賞されることとなりました皆様方には改めてお祝い申し上げます。

ただ、品質は優れているのですが、重量オーバーなどで惜しくも入賞を逃すぶどうがありました。次年度以降の出品にあたっては注意して頂ければ幸いです。

ぶどう栽培は、ジベレリン処理や房づくりなど、他の果樹にはない特別な技術が必要となります。ここ数年は異常気象が恒例のものとなり、また一部品種で問題となっている生理障害の発生など高品質なぶどうを栽培するのが難しい状況になっています。

今年のような極端な気象条件下でも高品質のブドウを生産されている園では、これらの技術に加え、栽培の基本となる土作りや必要に応じたかん水などの土壌管理をしっかりとされておられるものと想像します。

今後におかれましても、これを契機に、商品価値の高いぶどうの安定生産技術に磨きをかけていただければ幸いです。

最後に、これまで続いてきた本品評会の開催に御尽力いただきました関係者の皆様に敬意を表するとともに、出品いただきました生産者の方にお礼申し上げ、審査報告といたします。

令和5年9月5日

審査長 兵庫県立農林水産技術総合センター
農業技術センター 宗田 健二